

目的 演者らはさきに、米国留学体験者への意識調査ならびにカリフォルニア州の「モデルカリキュラム」の分析により、米国高校家庭科教育の特徴の把握を試みた。（第34回日本家庭科教育学会，第38回日本家政学会中・四国支部研究発表会口演）

今回はカリフォルニア州の高校家庭科教師を対象とした意識調査を実施することにより、米国高校家庭科教育の実態ならびにその特徴を、さらに明らかにしたいと考えた。

方法 平成3年8月に、米国カリフォルニア州の高校家庭科担当教師25名を対象とし、郵送法による意識調査を行った。調査内容は、勤務校の規模と家庭科担当教師数、家庭科教師としての経験年数と担当科目名、授業運営や評価における留意事項、米国高校家庭科教育の問題点および改善点などである。

結果 カリフォルニア州の高校家庭科担当教師は経験豊富な者が多く、大規模校に勤務している者が多い。高校家庭科は一般的に教科としての評価が低く、選択履修する生徒数の減少などから、時間数や予算の削減が行われるなど、かなり厳しい状況の中にある。しかし、家庭科教師たちは「教科に情熱と誇りを持ち」、「研修会などに積極的に参加することにより、授業の充実を図り」、「家庭科の重要性を生徒たちに認識させる」などの努力を日頃より重ねているようである。また、社会に対しても「家庭科の必修」、「家庭科関連の免許状の制定」など、家庭科の価値の認識と地位向上のために積極的な活動をしているようである。日米間には社会および教育事情の差があるが、日本の高校家庭科教師が、米国の高校家庭科教師の姿勢から学べる点が多いと考える。